

# 「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 埼玉 SAITAMA 子育て応援フェスタ 2023 が開催されました。



こどもや子育てにやさしい社会づくりを推進するために、『「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 埼玉 SAITAMA 子育て応援フェスタ 2023』が令和5年11月18日(土)さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナで開催されました。埼玉県が主体となり官民連携で「たのしい子育て」を情報発信し、体験型イベント等を通して子育ての楽しさを実感してもらうとともに、子育て世代間の交流も図られました。

## 【知事とこどもたちのこどもまんなかパネルディスカッション～リレーシンポジウム in 埼玉～

ステージで最初に開催されたのは、「知事とこどもたちのこどもまんなかパネルディスカッション～リレーシンポジウム in 埼玉～」。公募で選ばれた小学生とその保護者2組が、大野知事らとともに「埼玉県とこどもたちの未来」について様々な意見を交換しました。冒頭、こども家庭庁副大臣が「こどもまんなか」について説明すると、続いて知事が6月に「こどもまんなか応援サポーター」を宣言したことを報告。埼玉応援団を務めるタレントのビビる大木氏をサポーターに勧誘すると、子育て中のビビる大木氏も趣旨に賛同しサポーターとなる宣言をしました。

パネルディスカッションでは、「埼玉県の好きなところ」としてこどもたちが「自然豊か」「ショッピングモールがあって買い物が楽しめる」などを挙げたことを受け、知事が「埼玉県には、海以外すべてがあるところ」が県の魅力であると表現しステージを沸かせました。「埼玉県の未来」では外国人との多文化共生の重要性が多く述べられ、副大臣も自身の出身地である愛知県には「クラス半分がブラジル人の小学校もある」と全国各地でグローバル化が進んでいる現状を説明。そうした中でも分け隔てなくこどもや子育てを応援する「こどもまんなか」社会の実現に向けて、誰もが協力できるこどもまんなか応援サポーターへの参加を呼びかけました。

保護者が「子育てで困ったこと」として、「休日・夜間の診療」や「専業主婦の保育園の利用」など実生活で直面した困りごとに対して、副大臣からは「こども誰でも通園制度(仮称)」の創設を目指していること、知事からは「埼玉県 AI 救急相談」サービスの紹介などが伝えられました。パネルディスカッションの最後には、副大臣と知事がこれからの日本や埼玉県を担うこどもたちへエールを送りました。



こども家庭庁の取組みを発信する工藤副大臣



埼玉県の目指す未来像を示す大野知事



パネルディスカッション参加者

他にも様々な催しがステージで行われたほか、会場ではプロチームのコーチ陣による「初めての親子サッカー体験」や妊婦体験ベルトを装着し日常動作を体験する「妊婦体験コーナー」など多彩なプログラムに多数の来場者が参加しました。埼玉県のゆるキャラが会場内に登場する「ゆるキャラパレード～埼玉県の謎を解け～」では、多くのこどもたちが思い思いに笑顔でキャラクターと触れ合う姿が印象的でした。



【概要】名称:「SAITAMA 子育て応援フェスタ 2023」 / 場所:さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ / 日程:令和5年11月18日(土) / 内容:《パネルディスカッション》 知事とこどもたちのこどもまんなかパネルディスカッション～リレーシンポジウム in 埼玉～ / 主催:SAITAMA 子育て応援フェスタ実行委員会/ 協力:こども家庭庁